

## 総括

貴院は「断らない救急」を基本理念に掲げ、実践するための基本方針が全職員に周知されており、初期、二次、三次救急患者の受け入れを実践してきた。その結果として、救急車やドクターヘリなど、多くの救急患者を受け入れており、その実績は高く評価できる。また、東日本大震災以前から施設・設備・人材共に、大規模災害への対応能力向上に病院全体で取り組んできた。その結果、東日本大震災への支援および熊本地震に際した傷病者受け入れと被災地域への支援は被災地への大きな貢献となり、わが国の基幹災害拠点病院の先進的モデルともいえる実績を積み重ねていることも高く評価したい。

### Em.1 救急部門の地域における役割と基本方針

「断らない救急」を基本理念に掲げ、それを実践するための基本方針が明文化されて職員カードや院内掲示等で周知されている。また、院外に対してはホームページ等で発信されている。救急部門の役割は、熊本県保健医療計画や熊本中央二次医療圏の地域医療計画等で把握されており、それに沿った機能を発揮できるようになっている。県・市の各種会議や委員会で討議されて抽出された自院の課題は、病院全体で共有されている。また、診療体制については、地域の医療機関に対して「診療情報誌」を配布し、MC 協議会等で救急隊と情報交換、市民に対しては「日赤祭」や救急イベント企画等を通して、自院の役割・機能等を広報している。フライトドクター、フライトナースを養成し、ドクターヘリ運用マニュアルに沿って重症患者を受け入れており、年間に 700 件の実績を挙げている。自院の果たしている役割や機能については、MC 協議会、熊本県救急医療専門委員会、熊本市救急医療懇談会等で評価されており、改善への努力が継続されている。

### Em.2 救急部門の体制の確立

医師、看護師、事務部門などからなる組織図があり、救命救急センター長を管理責任者とする指揮命令系統が明確になっている。医師は救急科専門医 12 名を含み 23 名が救急部門に専従して、他科の支援を受けつつ 365 日、24 時間の救急に対応している。

経済的・社会的問題を抱えた患者は MSW、社会福祉士等の支援が迅速に受けられる体制になっている。時間外には 9 名の医師と 6 名の看護師、検査技師、放射線技師等の診療支援部門が勤務している。また、夜間は警備担当者が勤務し、警察とのホットラインも設置されており、職員・患者の安全が確保されている。

救急処置室は小児専用 4 床を含めて合計 20 床が、検査や画像診断設備、手術室は機能に見合って整備されている。救急部門の機器は臨床工学技士によって保守点検が

適切に行われている。休日・夜間も臨床工学技士によって機器の不具合の点検・整備がなされている点は高く評価できる。救急専用病床 48 床、特定集中治療室（ICU）16 床が整備されており、重症患者の入院に備えている。

### Em. 3 救急部門の機能の発揮

救命救急委員会は病院長の諮問機関として規定され、多部署・多職種の委員で構成されている。委員会は毎月開催されており、議事録も作成されている。また、病院幹部で構成される救命救急センター運営委員会が年 4 回ほど開催されており、救命救急委員会での討議内容が吟味され、報告・周知されている。

救急部門の当直表は救急外来等で掲示され、またオンコール表も明示されて診療各科の協力が迅速に得られる仕組みになっている。特に麻酔科はセカンドコールまで明示して、複数の緊急手術に迅速に対応できるようになっている。

救急受け入れ台帳が整備され、毎月の統計が救命救急委員会に報告されて委員全体に共有されている。傷病別統計や平均在院日数、死亡率等は適切に把握されている。また、血管造影、PCI 等救急部門の診療業務量はすべて中央部門で把握されており、救急部門の収益状況に反映されている。

### Em. 4 救急部門における質改善に向けた取り組み

職員対象の BLS や ICLS 等種々の講習会が活発に開催され、救命処置訓練への参加が奨励されている。学会発表や研究成果の論文発表は活発に行われており、診療の質が担保されている。医師の専門医資格の取得・維持、認定看護師資格の取得等に対しては、経済的支援も含めて専門性の育成システムが構築されており、病院全体でサポートされている。このシステムが救急科専門医師の確保に貢献していると思われる。

M&M カンファレンスでは多数の医師の参加があるが、看護師等医師以外の職員の参加が少ないように見受けられるので、その参加を促すことで、さらなる充実が期待される。症例検討会や外傷検討会など種々の検討会が定期的に行われており、診療の質向上に寄与している。外傷患者、脳卒中、心筋梗塞、院外心肺停止等の Registry に参加して他施設との比較が可能な状態になっている。

### Em. 5 救急患者への適切な対応

「断らない救急」をスローガンに初期、二次、三次の全ての救急患者を積極的に適切に受け入れている。また、受け入れが不能な場合には、その理由を登録して解析可能なシステムが構築されており適切である。看護師によるトリアージが行われ、医師による事後検証が実施されている。虐待疑い例では院内対応チームと院外関係機関とが適切に連携して対応している。

救急部門で必要な検査はすべて院内で実施可能であり、グラム染色や結核菌検査も常時実施できる体制になっている。各診療科のサポートは迅速に得られる体制になっており、麻酔科はセカンドコールまで設定して、複数手術に対応できるようになっている点は評価できる。また、放射線診断医による長期連休中の毎日の読影支援は特筆される。救急外来、救急病棟、ICU の診療記録は迅速・適切に記載されている。患者・家族への説明は電子カルテが設置された説明室で行われている。また、帰宅する患者へは適切な指導が行われている。

## Em. 6 災害時の対応

病院被災時の救命救急センターの対応を含めて、マニュアルが整備されており、訓練も適切に行われている。また、病院外で発生した災害で予想される多数傷病者の来院に備えたマニュアルや、病院外への救助・救護のための資機材もよく整備されている。特に災害時に対策本部、トリアージサイト、各救護ブースで使用する資料を添付したホワイトボードを救急外来に常時設置していることは非常に高く評価できる。災害発生時の職員の自主参集の意識も高く、また伝達網もよく整備されている。特殊災害、特に化学災害に対して日頃から実践しており評価できる。

## 評価判定結果

|          |                                   |   |
|----------|-----------------------------------|---|
| Em. 1    | 救急部門の地域における役割と基本方針                |   |
| Em. 1. 1 | 救急部門設置の趣旨・理念と基本方針が明確に定められている      | 4 |
| Em. 1. 2 | 救急部門の地域における役割と連携体制が適切に定められている     | 5 |
| Em. 2    | 救急部門の体制の確立                        |   |
| Em. 2. 1 | 救急部門の組織が確立し人員が適切に配置されている          | 3 |
| Em. 2. 2 | 救急処置室・検査室・手術室の施設・設備・器機が適切に整備されている | 5 |
| Em. 2. 3 | 救急患者を受け入れる病床が確保されている              | 5 |
| Em. 3    | 救急部門の機能の発揮                        |   |
| Em. 3. 1 | 救急部門の運営委員会が設置され、適切に開催している         | 4 |
| Em. 3. 2 | 診療各部門との連携が取られている                  | 3 |
| Em. 3. 3 | 救急部門の業務実績を把握している                  | 5 |
| Em. 4    | 救急部門における質改善に向けた取り組み               |   |
| Em. 4. 1 | 救急医療に関する教育・研修を行っている               | 3 |
| Em. 4. 2 | 救急医療に関する症例検討会を開催している              | 3 |
| Em. 5    | 救急患者への適切な対応                       |   |
| Em. 5. 1 | 救急患者を適切に受け入れている                   | 5 |
| Em. 5. 2 | 救急患者受け入れ時の対応が適切に行われている            | 5 |
| Em. 5. 3 | 緊急時の検査・診断に迅速に対応している               | 5 |
| Em. 5. 4 | 救急患者の手術を適切に実施している                 | 4 |
| Em. 5. 5 | 救急部門において感染管理を適切に行っている             | 3 |
| Em. 5. 6 | 救急医療の記録を適切に記載している                 | 4 |
| Em. 5. 7 | 患者・家族への配慮がなされている                  | 4 |
| Em. 6    | 災害時の対応                            |   |
| Em. 6. 1 | 災害時の対応体制が適切である                    | 5 |
| Em. 6. 2 | 特殊災害への対応体制が適切である                  | 5 |